

見たこと聞いたこと

代表の平塚千穂子さん。壁面の木の葉には寄付者一人ひとりの名前。こうした展示のアイデアも支援者と一緒に考えた



みんなで映画を楽しみたい、映画好きの仲間を増やしたい！ 日本初のユニバーサルシアター 「CINEMA Chupki TABATA (シネマ・チュプキ・タバタ)」

バリアフリー映画鑑賞推進団体 City Lights

JR田端駅北口から徒歩5分、駅下仲町通り商店街の一角にある「シネマ・チュプキ・タバタ」。青いひさし、色とりどりの

タイルを組み合わせたサインボードが目をはく。目や耳の不自由な人も、車いすユーザーも、誰もが一緒に映画を楽しむことができる日本初のユニバーサルシアターだ。

シネマ・チュプキ・タバタは、いわゆる単館系映画を中心に良品をセレクトし、1日に3〜4本を上映。すべての作品に音声ガイドと字幕がついている。座席にはイヤホンジャックがあり、受付でチケットを購入すると音声ガイド用イヤホンを手渡される。筆者が訪れたのは平日の午後。コロナ禍で定員20席を半分に減らしているが、この日は満席。白杖利用者やベビーカーに赤ちゃんを乗せた親子が座っていた。森をイメージしたという内装は、障がい者アートや寄付者の名前を記した展示もあり、随所に

人の息遣いが感じられる。

運営母体の「バリアフリー映画鑑賞推進団体City Lights」は、20年前から音声ガイド制作を手掛けてきた。制作ボランティアの中には声優や俳優もいれば、企業退職者もいる。音声ガイドや字幕の制作に関心のある人を対象にした研修の機会も設けている。制作は、配給会社に許諾を得るところから始まり、台本作り、字幕の入力やレイアウト、音声録音を1〜4人で担当。その間、聴覚や視覚に障がいのある当事者にチェックを



20席のメインシアターのほか、大きな音や大人数が苦手な人、赤ちゃん連れの人が利用できる鑑賞室も備えている

受けながら、表現を精査していく。

常設のシアターを持つことは長年の夢だった。特別なイベントではなく、日常的に誰もが映画を楽しめるような環境を作りたい。2016年の春、クラウドファンディングやSNSを通じ、3か月で531名/1880万円の寄付が集まり、9月に開館した。

「シネマ・チュプキ・タバタは、こんな場が欲しい、この場はなくなってほしくない、そういう思いに支えられている。シネコン(※)だけでなく、こんな映画館があってもいいんじゃないかな」と代表の平塚千穂子さん。「チュプキ」とはアイヌ語で「自然の光」。人と人がつながり、違いを超えて笑ったり泣いたり、あたたかな光を感じられる場、そんな願いが込められている。

【取材：事務局 宮本栄】

「シネマ・チュプキ・タバタ」

東京都北区東田端2-1-4

TEL&FAX 03-6240-8480

水曜定休



※ シネマコンプレックスの略。ひとつの施設に複数のスクリーンが設置されている複合型映画館のこと

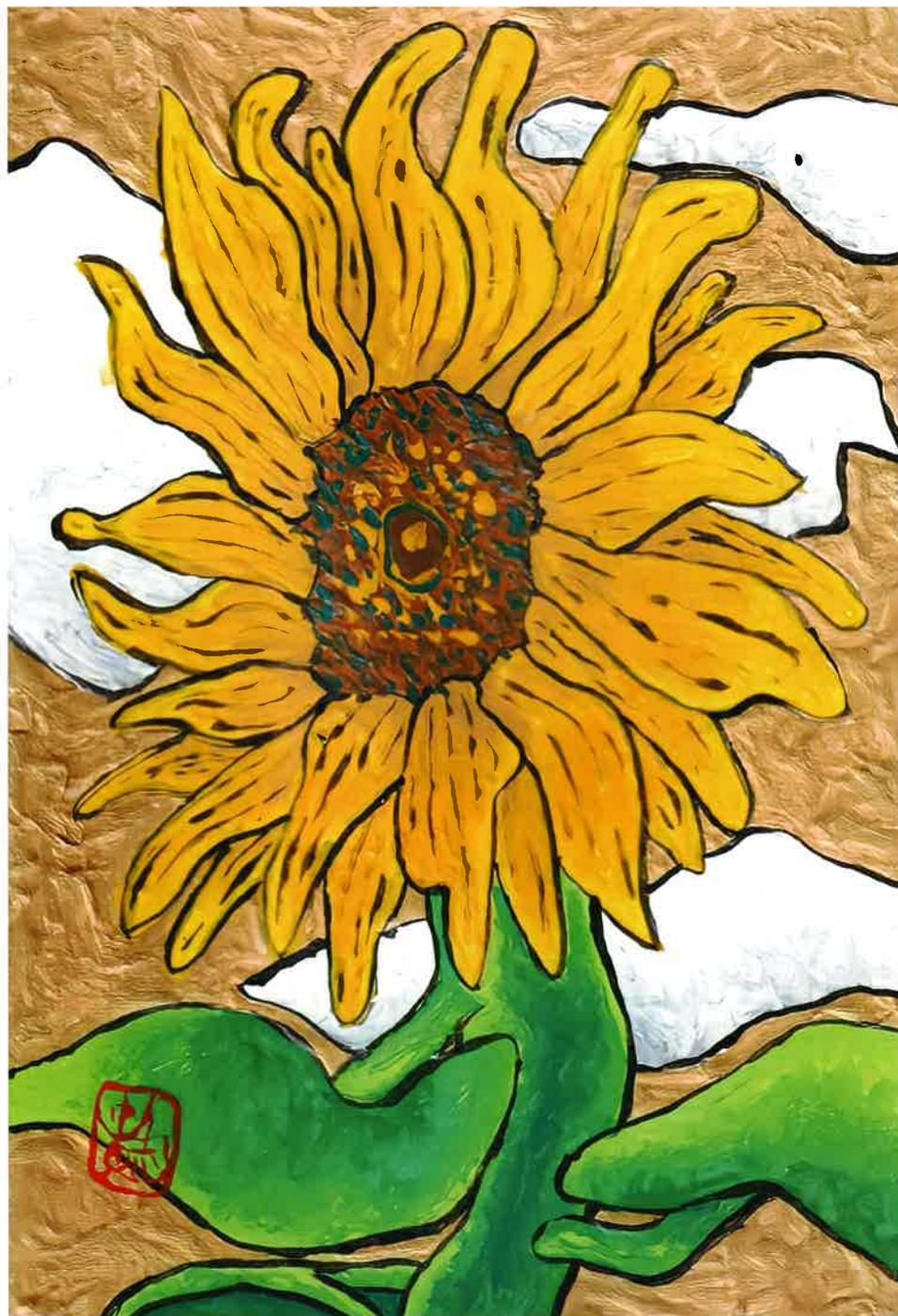
人と企業の社会貢献を応援する

Philanthropy

フィランソピー

No.262

August 2021



特集

今こそ読書の夏